



かける

公益大

地域とともに
歩む大学

本市にある唯一の大学、東北公益文科大学(公益大)。
皆さん、公益大を利用したり、日常の中で公益大生と関わったりしたことはありますか？
今回の特集では、さまざまなかたちで公益大に関わる4人の方にお話を聞いています。
市内でアルバイトをしながら地域との交流の幅を広げる公益大生、
プログラミングを活用し大学生と一緒に研究する中学生、
仕事をしながら自分に必要な知識を改めて学ぶ社会人、
そして「友だちが帰って来なくなる街にするためには」という視点で学ぶ地元進学者。
さまざまな視点での公益大との関わりを聞きながら、地域に大学がある良さを考えます。

☎市企画調整課企画調整係 ☎26-5704

interview 01

× 地域

酒田での生活で
たくさんの
つながりができた

歌岡さんは岩手県九戸村出身。
観光施設「山王くらぶ」や
市内のイベントなどでのアルバイト、
趣味を通して地域や観光客と触れ合っています。



東北公益文科大学 4年
歌岡 大祐さん

山王くらぶは歴史ある施設なので、酒田の歴史や施設のこと
も勉強しました。パンフレット
に載っている情報だけではな
く、自分の経験などを添えて案
内するなど、訪れた人の印象に
残るよう工夫しています。
アルバイトを通して、地域の
人に顔を覚えてもらう機会が増
え、交流の幅が広がったと感じ
ています。「歌岡君が興味ありそ
うだよ」とセミナーを紹介して
もらった、その方の経験を踏ま
えてアドバイスをもらったり
と、本当によくしていただいで
います。また、酒田の人たちと地
域について話す中で、ふるさと
九戸村の魅力も再認識すること
ができました。

公益大生は、自分から地域に溶け込もうとする人
が多いですね。また、酒田で生まれ育った人は「酒
田は何もない」と感じがちですが、市外から来た学
生は酒田に魅力や可能性を感じてくれていると見
受けます。歌岡君にはそういった視点を生かして
SNSでの発信もお願いしているんです。公益大
生と接していると、酒田の良さを発見しながら酒
田ですべきこと・できることを見つけてくれていて頼
もしい！ 私たちも、一緒に活動する中で気づかされ
ることがたくさんあり、プラスになっています。



山王くらぶ指定管理(南)チアーズ
加藤 明子さん

interview 02

× 中学生

大学生と研究を通して
仲間になれた

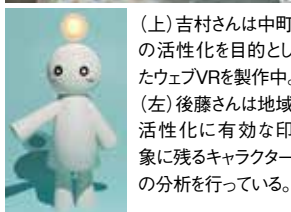
プログラミング学習を通し、
高い意欲や突出した能力を持つ
小中学生を育成する
ジュニアドクター鳥海塾。
サポート役の大学生と一緒に
プログラミングを活用した
地域課題の解決を研究する2人に聞きました。



吉村 奈夏さん(中学2年)

後藤 美咲さん(中学1年)

吉村さん／最初の頃はとても緊
張しました。大学生から聞いた
研究内容もレベルが高すぎて不
安でしたが、コミュニケーション
を重ねたり、マンツーマンで教
えてもらったりすることで、打
ち解けることができ、研究を深
めることができました。教えて
もらうだけでなく、大学生の卒
論のサポートにも参加している
んですが、経験を積んでいる実感
があつて、自分も仲間として貢
献できているのがうれしいです。
後藤さん／私にはレベルが高
すぎるのではないかと2年目も続
けるか悩んでいました。でも私
が知りたいことを専門的に研究



(上) 吉村さんは中町の活性化を目的としたウェブVRを製作中。
(左) 後藤さんは地域活性化に有効な印象に残るキャラクターの分析を行っている。

している大学生とチームになり、
研究そのものだけでなく効率的
な進め方も身に付きました。講
義のとき以外にも、チームで週1回
程度オンラインで進捗を報告し
合っていて、こまめにアドバイ
スももらえるので、迷いが少な
く進めることができます。

◆公益大は、科学技術振興機構の令和3年度「ジュニアドクター育成塾」実施機関に選定されています。



▲ジュニアドクター
鳥海塾

× 社会人

社会人も、
自分が暮らす街で
地域に根差した学びができる

今、注目されるリカレント教育。近藤さんは、働きながら大学院で公開講座を受講し、仕事に役立てています。

*社会に出た後も必要なタイミングで教育を受け、仕事と教育を繰り返すこと。



NTT東日本
庄内営業支店
近藤 良輔さん

―受講のきっかけは

私は公益大卒業後、入社以来、法人営業を担当しています。仙台・東京での勤務を経て、昨年から酒田で勤務しています。

「地域の課題を聞き、解決策を提案していく」という形に、自社の方針が変わってきていることを受けて、地域の話を「聴く力」が必要だと感じていました。また、さまざまな人たちが巻き込まれないと地域での課題解決はできないと感じていて、多様な人たちとの対話を



▲グループワークではさまざまな意見を出し合う。

通して地域課題の解決を目指す「地域共創コーディネーター養成プログラム」は仕事内容や会社の方針にマッチしていると感じ、受講を決めました。

―学生時代の学びとの違いは

学生時代は、必修科目の履修など、受け身の学びが多かった気がします。社会に出ると、世の中の変化や自分が置かれている立場ごとに、自分に足りないところや課題にぶつかりました。それ乗り越えるために必要な学びを自ら選択するというのが、学生の頃とは違うと感じます。

―公益大での学び直しの良さは

住み慣れた街で、地域の人と繋がり地域に根差した学びができるというのが魅力だと感じています。

× 地元進学

住み慣れたまちで
やりたいことを
深く学べる

本市出身の小野寺さんに、大学生活について聞きました。

―公益大に進学してみて

私は将来、酒田の地域活性化に関わりたくて考えていて、観光やまちづくりに関するコースもある公益大を最終的に選びました。同級生は県外に出ている子も多く「いざ戻ってきてほしい」という気持ちがあるので「若い人たちが楽しく住みやすい地域にするには」という視点で講義や演習に取り組んでいます。市内で進学して感じるのは、一番は安心感です。県外だと土地勘もなく、今はコロナもあり離れていたら不安が大きかったと思うのですが、地元進学は近くにいる分、親も私も安心できると感じています。

―地域活動で気づく地域の魅力

参加するサークル「プラクセス」では日向コミセンのカフェ



東北公益文科大学2年
小野寺 未来さん

で自分たちで考えたメニューを提供しています。実は、公益大に入るまで日向地区のことをほとんど知らなかったんです。授業で訪れて、自然豊かで魅力的な場所であることを知り「遊ぶところがない」「魅力がない」という考えが「自然も観光に生かせるんじゃないか」と、変わりました。



▲サークルプラクセス Instagram



▲地域の方との意見交換

保護者のコメント

自宅から通い、毎日顔を合わせるので、様子が違うときに顔を見てすぐに声を掛けることができます。近くで見守ることができる点でも、地元で良かったと思います。

学長インタビュー

地域が大学を作り、大学が地域を作る

大学が考える地域との関係、酒田の地でどんな学生を輩出し、どんな大学を目指しているのか、神田学長に聞きました。

地域課題の解決に学生も教員も

18歳での地域外への転出が多い庄内で、約1千人の学生がいる大学の存在は大きく、学生が地域で生活することは地域の活気にもつながることが期待されます。本学は開学以来、地域が大学を作り、大学が地域を作る「大学まちづくり」に取り組んできました。学内だけの学びにとどまらず、地域で学び、地域課題にも率先して取り組む学生が多くおり、その解決に一定の貢献ができていますと考えています。ま



▲地域での学習の様子

た、研究を通じた地域への還元意識を持つ教員が多いことも特色です。

学生に求める4つの力

1つ目は相手の意見を聴き、自分の考えを伝える「コミュニケーション力」。2つ目は「国際感覚」。この地域の課題に取り組むむとしても、視野を広げ他地域や他国の事例を見ないと解決はできません。3つ目は解決策を考え、具体的な計画を立案していく上で必要な「創造力・企画力」、4つ目はやりきるための「リーダーシップ」。これらの「知識を活用する力」を身に付けてもらいたいと考えます。コミュニケーションやリーダーシップは学内だけでは身に付けることが難しく、地域という学びのフィールドがあることで、学生たちは成長できていると実感しており、まさに地域と大学が協働で人材育成をしていると考え



東北公益文科大
学長 神田 直弥 氏

ています。一方で、社会の変化とともに、求められる人材も変化しています。この地域が必要とする人材について、地域の関係各所と継続的に意見交換をすることが必要だとも感じています。
公益大に声をかけて良かったと思われる存在に

どの地方でも人口減少は課題で、地域の活力の低下もますます深刻になっていきます。学生が4年間を過ごす地域に元気があることは、充実した学生生活を送ることにともながるため、引き続き地域と連携し、一緒に課題解決に取り組むことで「大学に声を掛けて良かった」と思われる存在であり続けたいと考えています。大学の使命は教育・研究・社会貢献です。これらにバランスよく取り組みながら、地域に根差し多様なニーズに対応できるように変化していかねばならないですね。

地域とともに歩む公益大

地域に大学があることにより、学生が地域に出ることによって活力が生まれ、地域が抱える課題を大学と地域が協働して解決を目指すことができたり、学生でなくとも学べる場があったりと、地域にとっても良い影響があります。

地域が大学を作り、大学が地域を作る「大学まちづくり」のさらなる充実に向け、本市と公益大は引き続き連携を深めていきます。

地域と公益大を

結ぶ窓口

地域共創センター

まちづくりや地域課題の解決、地域の活性化を推進するため、住民、企業、行政との間でさまざまな連携活動を展開しています。

各種講座やオープンキャンパスなどの最新情報は公益大ホームページから

今回のインタビュー
拡大版を
市ホームページに
掲載中！



▲市ホームページ



▲公益大ホームページ



▲公益大ホームページ(地域共創センター)